

平成28年度 第4回 安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び  
協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会 会議概要

|   |
|---|
| <p>1 審議会名 平成28年度 第4回 安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会</p> <p>2 日 時 平成29年3月27日(月) 午前9時30分から午前11時30分まで</p> <p>3 会 場 本庁舎 3階 共用会議室305</p> <p>4 出席者 熊井委員、重野委員、栗田委員、内川委員、大神委員、宗像委員、青柳委員、小河委員、飯沼委員、初谷委員、花岡委員、宮澤委員、遠藤委員</p> <p>5 市側出席者 宮澤地域づくり課長、山田課長補佐兼まちづくり推進係長、金子まちづくり推進係主査</p> <p>6 公開・非公開の別 公開</p> <p>7 傍聴人 0人 記者 1人</p> <p>8 会議概要作成年月日 平成29年3月28日</p>   |
| <p>協 議 事 項 等</p>  |
| <p>1 会議の概要</p> <p>(1) 開会</p> <p>(2) あいさつ</p> <p>(3) 審議事項</p> <p style="padding-left: 2em;">①個別協働事業の評価について(資料1-1、1-2)</p> <p style="padding-left: 2em;">③協働の計画に基づく進捗状況について(資料2、3、4、5)</p> <p>(4) その他</p> <p>(5) 閉会</p>   |
| <p>2 会議事項概要</p> <p>(1) 開会</p> <p><b>【栗田副会長】</b></p> <p>本日は13名の委員に出席いただいている。設置要綱第6条第2項の規定に基づき、過半数の出席をいただいております。委員会の成立をご報告させていただきます。</p> <p>(2) あいさつ(会長)</p> <p>(3) 審議事項</p> <p>①個別協働事業の評価について</p> <p>※事務局より説明。</p> <p><b>【委員】</b></p> <p>これまで行政が行っていた事業を協働事業として実施した事業が見られる。協働することでどう効果があったのか、協働する必要がある事業なのか、わからない点がある。</p> <p><b>【委員】</b></p> <p>個別事業の評価を実施するに当たって、これまで確認してこなかった事業について、どう評価してよいか難しい。協働の委員が役割分担して各事業を見てくるなどできれば、全体の目的にそっているのかどうなのか、など、提出された評価を検証することができると思った。</p> |

**【委員】**

提出された評価結果では、「効果があった」と回答されているものが多い。しかし、委員として評価するに当たり、どう効果があったのかがわからない。

**【委員】**

委員になったからには、何か所かは、報告を受けた事業に顔を出さなければ評価のしようがないと思う。自分で見たことについては評価ができるが、机上だけで語れるものではない。関係のある団体以外も、見てくるべきではないかと思っている。

**【委員】**

評価シートについて、何のためにやっているのかを確認したらよいと思う。お互いが自覚を持つために行っているのか、事業にお金を出す場合に、そのお金が協働に結び付いているのかを確認するためなのか、市民にわかりやすく提供するために行っているのか、評価シートを作成して、委員会で評価する目的が明確になれば議論しやすいのではないかと。

**【委員】**

評価シートで「今後に向けた改善事項等（自由記述）」欄に何も記載がない事業がある。改善することが無いのか、それなら独立しても良いのか、など、いかようにもとれてしまう。

**【委員】**

評価シートの最後に掲載されている事業である里山再生計画（「さとぼろ。」）について、私も4年間直接関わってきた。「さとぼろ。」のメンバーは20人程の委員が5年位継続して行っているが、近隣市町村と比較し、安曇野市ほど優れたものはないと思っている。サポーターとして約100名が登録し、5つのプロジェクトに分かれて、それぞれの立場で活動している。特に里山の学校では、長峰山を舞台とし、猟友会によるハンター講習やジビエ講習など活動しているものの、シートの中ではその様子について写真等がなく、文字だけの表現では味気ないと感じた。事業の課題としては、各サポーターの活動が相乗効果を高めるため、どう取りまとめてどんな方向性でどんなコンセプトでどういう風に進めていくか、という自己消化をしていかなければならない、ということをお話されていた。私も、できるだけ委員会等には傍聴している。

**【事務局】**

大変貴重なご意見をいただいた。協働というのは、基本的には単体だけでは目的を達成できない、または、一緒に行くことでより効果が生まれる、お互いがwin-winの関係の中で一つの目標に向かって行るのが協働事業である。今回の協働事業をご覧いただくと、市から呼びかけたもの、元々実行委員会形式で行っていたもの、市民からご提案をいただきながら進めてきたものなど、元々の事業の発足が異なっている。協働事業そのものの温度差もあるのが実際である。自己評価、総合評価では、大きく2つの評価をさせていただいている。1つは、目標、役割分担等、協働事業としてどうだったのか、2つめは効果。評価シートも委員会の中で策定していただいたものであるが、これだけでは不十分なところもある。昨年度も評価の仕方をどうするか、という話があったが、結論が出ないまま、本年度にきている。各部署に投げかけ、評価の仕組みはできたが、そこで止まっており、委員会ですっきりとした形でお伝えすることができていない仕組みである。各事業を全てヒアリングしお伝えできれば良いが、難しいのが現状。昨年度に委員より、委員会の中でヒアリングをしながら評価したらどうか、というご意見もいただいた。そういう形が必要であれば、次年度、研究していきたいと考えている。各部署が協働事業により、より多くの効果を得られる仕組みを作っていければと思っているため、いただいたご意見を参考にしながら仕組みを変えていきたい。

**②協働の計画に基づく進捗状況について**

※事務局より説明。

**【委員】**

庁内部署の横断的な連携について、庁舎内の横断的な連携が取れないということはどういうことか、と思う。例えば、新体育館の建設について、生涯学習課、財政部、都市建設部等が連携すべきだと意見が議会委員会に出ていたが、チグハグなようで気がかりである。また、屋敷林のプロジェクトで開催されたフォーラム等にも参加したが、都市計画課だけが緑化政策を行っているわけではなく、耕地林務課も一生懸命行っている。環境課では、環境フェアなど様々なことに取り組んでいる。これらが連動し、最初から部局横断的に取り組めば、さらに素晴らしい事業となる。市民側で、緑化政策について関係者が集まり市民目線で作り上げていけ

れば良いと感じる。

**【事務局】**

各部署、協働について理解し、主体的に取り組むというところまでもってきた。各部署でフォーラム等行っているが、関係する部署と連携を図っていると思うが、ご意見をいただいた点について不足する点は、個別にお話をさせていただく。また、他市との連携について、個別の情報のやり取りはしているが、一つの仕組みとしてはできていない。また、各部署では個別に区や民間、市民活動団体等と連携を図っているが、しっかりと形づける仕組みができていない。今後、協働の理解を進めながら、仕組みを作っていくことをやっていきたい。

**【委員】**

社会的な話題となる公共の部分は行政の縦割りがネックとなっており、その辺、総括的な工夫はできないか。例えば、不用食器リサイクルでは、環境課と連携が必要だと思うが、協働できていない。少なくとも、大きな傘の中で各部署が行えば簡単にできることがあるように思うので工夫してもらえればありがたい。

**【事務局】**

委員がそのようにお感じになられるということは、問題があるのだと思う。各部署はこれまでの縦割りから、関連するところは関連していくという意識の中でやっている。関係する部署というのは、総合計画に照らし合わせながら、その課として行うべき事業か精査をしているはずであり、その中で必要であれば、各部署が連携していくのは当然である。個別の事業については、個別にお話しをいただければと思う。

**【委員】**

実行委員会等の会議の時に、担当課に参考で来てもらえれば良いと感じた場面が何回かあったので、そのような時に、横の連携を積極的に図っていただければよい。

**【委員】**

広域的な連携について、具体的に、どこの市町村と連携を図ろうと計画されているのかとか、連携というと、他市町村と協定を締結すると思うが、その中でどういう情報を盛り込むことを目標としていて、今どの段階なのか、ということがわかると、わかりやすいと思うがどうか。

**【事務局】**

委員の皆さんによる計画策定の当時、これから協働は、広域的な部分が出てくるし、自治体によって協働の温度差もある中で、安曇野市の協働を推進していく上では、他市町村との連携が重要であると、その中で、他市との連携によりお互いの情報を共有していったらどうかということで、盛り込んだと思う。

**【委員】**

基本的には情報公開に関するシステムを作っていきたいということで、周りの市町村との関係で、情報公開に関する協定というところまでは出来ていないということか。

**【事務局】**

協定まで、というのはどうかかわからないが、仕組みの中で情報共有がもう少しできればということ。NPO等の団体は、様々な自治体で活動しているので、そのようなことも含めてリンクする仕組みが必要と考えている。

**【委員】**

不用食器は、市民から発案した事業である。アルプス花街道は皆さんご存知と思うが、これは見直しの時期に来ているのではないかと思う。見ていただければわかるが、汚く、高齢化で水やりも大変となっている。どう思われるか。

**【事務局】**

4月より組織改革により地域づくり課が担当になる。長野オリンピック開催の翌年から、インター北から2kmほど、5m位の区画を分けて皆さんで花を植えていたのが始まり。豊科町時代に、県道に県の協力で掘っていただき、そこに植えるようになり、合併により全市的に広がった。ところが、やらされ感になっているというお話を伺う。それも、高齢化の中で中々できないということが原因としてあるかと思う。委員のお話の通り、毎年マンネリ化するのではなく、まず必要なのか、ということも含めて、改善すべきところは改善しながら進めていければと思う。

**【委員】**

情報の扱い方、収集、共有、発信が下手である。地元のメディアを上手に使うことが一つのコツ。出前講座もFMで全て流せば、講座に出られない方も聞くことができる。また、情報が各

部署から広報に集まらない。広報に情報が全て集まる仕組みが大切だと思う。

**【委員】**

出前講座について、どんなテーマについて市民のニーズがあるか。

**【事務局】**

今年の講座メニューは 86 テーマあるが、回数に偏りがある。防災に関する講座は 40 回、また健康の関係が多く、歯の健康や介護保険の関係などが多い。また今年の特徴として、文化課であづみのフィルムアーカイブというものがあり、これが 16 回であった。特殊詐欺の関係も要望が多かった。全体の回数は右肩上がりであるが、同じ課に集中してしまうところもある。

**【委員】**

自主防災等は社会のニーズに沿っていると思う。ニーズに沿って需要に応えるのは重要である。成年後見人や遺言書の書き方等、よそでは参加者が多く関心のある方が多い。ニーズの絞り方を検討していただければ、より回数が増えると思う。

**【事務局】**

各課の制度や施策で特に重要なものをメニューとして上げていただいている。参考にさせていただく。

**【委員】**

市民活動団体の登録について、市の施設を借りると会場費がかかるため、登録すれば会場を無料で借りることができるなど、メリットがあれば増えるのではないか。

**【事務局】**

市民活動サポートセンターを貸館業務としてやっていったらどうか、というお話もあった。そうするのであれば、条例化をして、他施設と同様に無料ということにはならない。現状のセンターの施設規模等を考えると、無料で多くの団体に使っていただくということは難しく、それよりむしろこれから重要なことは、市民活動団体としてどう円滑に活動していくか、また、市民活動サポートセンターは協働の拠点となるため、様々な団体が情報共有し、必要に応じて、団体間でつながれるようなコーディネートが最も重要な機能であるため、そのような仕組みをしっかりと構築していくことが最重要課題と考えている。登録団体を増やすために施設の無料貸し出し、ということはない。

**【委員】**

コミュニティ・マニュアルについて、区長会も私が携わった当時より非常に前進していると感じる。区の未加入の原因について、古いしきたりで高額な区加入金や地区公民館の建設負担金を要求するところもあり、区の加入が進まない要因の一つであるため、記載を加えてほしい。

**【委員】**

高額な加入金や役員が回ってくるのが区加入促進の障害になっていることは理解している。ただし、各区によって歴史・文化、背景が異なり、統一することはできない。しかし、その点について、各区では十分に理解しており、区加入促進のためにどうしていくか、各区では悩んでいる状況である。今後、各区の総会や役員会において、具体的に解決していく作業が始まると理解している。そのキッカケとなるのが、平成 29 年度に強力に進める「部制度」が一つのトリガーとなり、様々な課題を解決するチャンスとなると思っている。ただし、83 区の歴史や規模の大小等の違いがあるため、平成 29 年度に全ての区が統一して部制度を導入できるか、また、画一的な構成とはならず、83 通りのやり方、進め方があることとしている。市区長会としては、平成 30 年の 4 月を目標に取り組みうじやないかと方向性を定めてきた。

**【委員】**

コミュニティ・マニュアルに、コミュニティに関わる課題として、加入金等の負担金について列記すべきと思う。また、子どもを取り巻く課題について、学校と地域とのコーディネーターを経験する中で、県の教育委員会が悩んでいることは、情報化である。スマートフォン等をどう扱うか問題になっている。これについて列記すべきと考える。次に、「人口減少や少子高齢化等により、多様化する地域課題・・・」という文言はいつも出てくる。私は 4 年前より申しあげているが、変化しているのはそのような社会環境だけでなく、自然環境も変わっている。その辺を皆さんどうお考えか。

**【委員】**

最初のスマートフォンの問題について、まずは家庭の問題と考える。それを指導していくのが市であり、まずは家庭。

**【委員】**

子どもを取り巻く課題としてある、ということで加えていただきたいと申し上げた。

**【事務局】**

委員のおっしゃる通りである。今回提示したコミュニティ・マニュアルは完成版である。このマニュアルの作成に当たり、各区長とのキャッチボールの中で、毎月のようにご意見をいただき作り上げていただいた。一つひとつみれば、こういったことも必要ではないか、ということも出てくるかもしれないが、現場でご尽力いただいている区長の思いが集約されているとご理解いただきたい。また、自然環境も含め地域課題と考えていらっしゃると思うので、完全に除いているというお話ではないので、よろしくお願ひしたい。

**【委員】**

コミュニティ・マニュアルの作成に当たり、区長会としての思いとしては、これからこれをどう市民に活用していただくか、ということが課題。区の役割の一つと考える。このマニュアルを活用して、様々な課題に対応していくための一つの教材としていただきたいと考えている。様々な面で書き足りないところはあろうかと思うが、ご理解をいただきたい。また、区加入の障害について、マニュアルには、「新しい風を大切にする」という記載がある。先ほどからお話のある、古いしきたりなどについて、若い方、外部からいらっしゃる方とどう地域をつくっていくかについて提言させていただいているので、この中で皆さん考えていただけるのではないかと考える。

**【委員】**

このマニュアルを隅から隅まで読んだ。よくここまで作成いただいたと思う。災害の部分も教科書として非常に参考になる。よく頑張られたと思う。これは市との協働である。

**【委員】**

企業からの情報について、企業にアプローチさせていただいたことがあるが、企業からみると、「認知度が無いものが何しに来た」という感じを受けた。商工会等、総会等があれば、一言お話しさせていただきたいと思うが、そのようなことは次年度からは難しいか。また、市民活動サポートセンターについて、現状、閑散としていて、市民活動センターとしての業態となっていない。貸館が必要ではないかというご意見が、会議の中で講座修了者からもあった。ニーズがあるので、行政で対応できるものなのか、工夫の中でできないものか、双方で協議できればと思うがどうか。

**【事務局】**

まず、企業との関係だが、近年企業も大変であり、協働事業は難しいと思う。ただ、個別には、企業と協働している自治会や市民活動団体もあるが、企業としてもメリットがあることを伝えていくしかないと思う。また、市民活動サポートセンターについて、現状の状況では貸館業務はやらないとお話をさせていただいている。どのような状況になったらなるか、ということは難しく、活動が増えれば条例化できるか、という話なのか、鶏が先か卵が先かの話になる。市民活動サポートセンターは実際何なのか、ということをご皆さんで協議をしてきたと思っている。そこを理解した上で新たな体制を整えてきた。当時、「わの会」と2年、3年と話し合いをしてきた。その結果として現状がある。現状の中で当然課題もあるので一つひとつ解決していくが、一つの大きな方向性として貸館をやめていこうという申し合わせで始めてきた。その軸をブラして元に戻るのではなく、現状の中でどうしていくかが重要であり、そのために、毎月調整会議を行っている。色んな意見をいただく中で、これからどうあるべきか提案させていただきながらやらせていただいているので、本来の在り方を共有しながら具現化できるような形にしていきたい。あくまでも現状では貸館は出来ないが、将来的には検討する場面も出てくるかと考えている。

**【委員】**

そのような回答で結構である。平成28年度から始まったので、現状の上にどのような積み重ねがあるか、ということが協議できる場があれば問題ない。

**【事務局】**

そこに携わる方だけでなく、この委員会こそが、情報を提供させていただきながら、本来の市民活動サポートセンターの在り方の議論をしていただく、また、教育機関や企業等との連携をどうやっていくか、建設的なご意見をいただきながら具現化していくのもこの委員会の役目だと思うのでよろしくお願ひしたい。

**【委員】**

「わの会」の「わ」の名付け親は私であるが、いろんな意味合いの「わ」があるので、今後話し合いを継続したうえで結論を決められたらどうか。

**【委員】**

市民活動サポートセンターの登録団体について、目標である 150 の登録数に向けて市民活動サポーターが取材等、努力をしていくことになるが、ただボランティアでは力が入らない。成果を上げるための措置をしてもらえないかという意見が出ている。実際、各団体へ行って、ガソリン代をかけて一生懸命やって 150 にするのは、よほどの努力をしなければならないと思う。

**【事務局】**

登録数を増やすことが目的ではないことは、先ほどからお話をさせていただいている。市民活動サポーターについて説明をさせていただくと、協働コーディネーター養成講座を開催しており、第 1 期生 16 名中、概ね 7 回以上出席をいただいた方を修了者とし、計 13 名いらっしゃった。その内、3 名の方が、協働コーディネーターとして、市民活動サポートセンターに交代で常駐している。他 10 名は、市民活動サポーターとして、イベント等、様々な情報を入手するために取材を行い、また、併せて各団体の課題を把握し、情報としてつかんでいただいている。その情報を一元化し、整理し、総括する中で、それに対して講座等、必要なセンターの事業を展開していこうと行っている。登録団体を増やすために取材を行っているのではなく、取材を通してお声がけをしていただき、登録を促している。費用弁償について、基本的に附属機関ではないので、ガソリン代程度で申し訳ないが、そのような仕組みを作らせていただいている。現状はそのような方向であるが、ご意見は参考にさせていただく。

**【委員】**

区など自治会の関係で評価が A となっている。どの位置までできて A なのか。評価の仕方をお聞きしたい。

**【事務局】**

あくまでも市として、自治会等が行う様々なことについてどれだけサポートできたかの評価である。実際は、各区で様々なことを行っており、温度差はあるが、各区が市区長会を通じて同じ方向性で進むということが想定以上に構築できたことの評価である。その後の浸透については、次年度、各区の役割である。

**【委員】**

行政が方向づけたという評価か。

**【事務局】**

協働の計画をご確認いただくと、自治会等が行うことについて記載があり、最後に委員会を含めてこれをサポートしていくとある。それに対する評価である。

**【委員】**

私の区は 1 区 2 常会であるが、片方は加入金が 1 万円、もう一方は過去に土地の購入をした経過があり、16 万円の常会加入金をいただいている。以降、10 数軒転入があるが、分割であれば払えと、断られたことがない。意識の違いかと思う。2 つの常会を 1 つにしようと話をしているが、加入金の調整がネックになっている。明科は元々 67 常会が合併によって 14 区になったところなので、それぞれしごらみがある。

**【委員】**

所属する団体で、移住や I・U ターンの施策に協力し、各地でセミナーを開催し、お試し住宅等を実施している。説明の中で、区加入金の話は出なかった。それではいけないと思う。加入金の話はしないといけない。

**【事務局】**

転入される方には、地域づくり課及び地域課でチラシを用いて区について説明しているが、その中には、区の負担金について説明をしている。しかし、区ごとの負担については把握していないため、各区長に確認していただくようにしている。移住定住についてはまだ考えていなかったため、担当課と調整させていただく。説明は必要なことである。

**【委員】**

一つの区の中にいくつか部がある。私の区では総代の下に環境部と健康づくり推進委員だけ。常会の中に、交通安全、防犯等がある。区長と常会長の役割が分かれている。

**【委員】**

セミナーで誘致するというお話があったが、その中で、安曇野に来たら、区に入っていただくようPR活動をしていただければ加入世帯も増えると思うので、連携をとって進めていただきたい。

**【委員】**

セミナーで話していることを聞くと、どういう共同作業があるかと聞かれるが、道普請と雪かき位しか言えていない。お金がかかるということは一言も言えていなかった。

**【事務局】**

担当には、ぜひ区に入っていただくよう、また、区費や役員の負担等について説明していただくようお願いしているが、具体的な内容まではお伝えできていないので、何かできることを組み立てていきたい。

**【委員】**

私の区では、区費は集めておらず、常会費を集めている。常会ごとに会計も別で、コミュニティが出来ている。

**【委員】**

その辺りを、明科地域の区長には、市区長会の場でPRしていただければと思う。

**(4) その他**

**【内川会長】**

本日をもって、委員の任期中の会議は最後となる。1年、または2年の任期をお務めいただき、市の協働推進に慎重審議をいただき、感謝申しあげる。一言ずつご感想をいただきたい。

※委員各位よりご感想。

**【内川会長】**

以上をもって本日の会議を終了します。

**【栗田副会長】**

本日も、慎重審議、ありがとうございました。これで会議を終了とします。お疲れ様でした。